

第 2 回 新潟都心地域 都市再生緊急整備地域準備協議会
資料用語解説集

用語	解説
5G	第 5 世代移動通信システム（だいごせだいいどうつうしんシステム 英：5th Generation、5G）。1G、2G、3G、4G に続く国際電気通信連合が定める規定 IMT-2020 を満足する無線通信システム超高速、超低遅延、多数同時接続が可能になる
AI	人工知能（じんこうちのう 英: artificial intelligence、AI〈エーアイ〉）。人間の思考プロセスと同じような形で動作するプログラム。あるいは人間が知的と感じる情報処理・技術といった広い概念で理解されている。
BCP	事業継続計画（英：Business Continuity Plan）。自然災害、大火災、テロ攻撃などの緊急事態に遭遇した場合において、事業資産の損害を最小限にとどめつつ、中核となる事業の継続あるいは早期復旧を可能とするために、平常時に行うべき活動や緊急時における事業継続のための方法、手段などを取り決めておく計画。
DX 〔デジタル・トランス フォーメーション〕	「IT の浸透が、人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させる」という概念。デジタルシフトも同様の意味。「企業がテクノロジーを利用して事業の業績や対象範囲を根底から変化させる」という意味合いで用いられる。
ESG 投資	財務情報だけでなく、環境（Environment）・社会（Social）・ガバナンス（Governance）要素も考慮した投資のこと。
IoT	Internet of Things：モノのインターネット様々な「モノ（物）」がインターネットに接続され、情報交換することにより相互に制御する仕組み。
ICT	Information and Communication Technology：通信技術を活用したコミュニケーションのこと。
MaaS	ICT を活用して交通をクラウド化し、公共交通か否か、またその運営主体にかかわらず、マイカー以外のすべての交通手段によるモビリティ（移動）を 1 つのサービスとしてとらえ、シームレスにつなぐ新たな「移動」の概念。
MICE	企業等の会議（Meeting）、企業等の行う報奨・研修旅行（Incentive・Incentive Travel）、国際機関・団体、学会などが行う国際会議（Convention）、展示会・見本市・イベント（Exhibition/Event）の頭文字を使った造語で、これらのビジネスイベントの総称。
SDGs	Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標「誰一人取り残さない（leave no one behind）」持続可能でよりよい社会の実現を目指す世界共通の目標。2015 年の国連サミットにおいて全ての加盟国が合意した「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」の中で掲げられた。2030 年を達成年限とし、17 のゴールと 169 のターゲットから構成されている。
Society5.0	サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会（Society）狩猟社会（Society 1.0）、農耕社会（Society 2.0）、工業社会（Society 3.0）、情報社会（Society4.0）に続く、新たな社会を指す未来社会の姿。
イノベーション	物事の「新結合」「新機軸」「新しい切り口」「新しい捉え方」「新しい活用法」（を創造する行為）のこと。

用語	解説
ウォークアブル	居心地よく歩きたくなる
駅南開発計画	昭和 46 年に上越新幹線の新潟市乗り入れが決定したことを受け、新潟市の副都心と位置付ける新潟駅南口周辺地区（約 15.4ha）において、街区を A 街区から F 街区に分け、都市計画道路と再開発事業を行う「新潟駅南口地区再開発基本計画」を昭和 51 年に策定した。これ以後、時代の変化に合わせて G 街区を追加（19.5ha）するなど、計画の修正を行いつつ、各街区において、市街地再開発事業（3 地区）や優良建築物等整備事業（2 地区）、都市計画道路の整備等を実施した。
エネルギーマネジメントシステム	ISO/DIS 50001 として国際規格化されたエネルギー管理体系エネルギー使用に関して、方針・目的・目標を設定し、計画を立て、手順を決めて管理する活動を体系的に実施できるようにした仕組み。
エリアマネジメント	「地域における良好な環境や地域の価値を維持・向上させるための、住民・事業主・地権者等による主体的な取組み」または「特定のエリアを単位に、民間が主体となって、まちづくりや地域経営(マネジメント)を積極的に行おうという取組み」
既存不適格	建築・完成時の「旧法・旧規定の基準で合法的に建てられた建築物」であって、その後、法令の改正や都市計画変更などにより、現行法に対して不適格な部分が生じた建築物のことをいう。
小型モビリティ 〔超コンパクト モビリティ〕	自動車よりもコンパクトで小回りが利き、環境性能に優れ、地域の手軽な足となる 1 人から 2 人乗り程度の車両。
サテライト拠点	サテライトは本来「衛星」のこと。「本体から離れて存在するもの」の比喻としてよく使われる。「サテライト拠点」は本社機能を補完するサテライト的な位置づけの拠点のこと。
再生可能エネルギー	太陽光、風力、水力、地熱及びバイオマス（動植物由来の有機物）など、自然環境の中で繰り返し起こる現象から取り出すエネルギーの総称。「枯渇しない」「どこにでも存在する」「CO ₂ を排出しない（増加させない）」などの特徴がある。
シビックプライド (Civic Pride)	都市に対する市民の誇りを指す言葉。「シビック（市民の／都市の）」には権利と義務を持って活動する主体としての市民性という意味がある。自分自身が関わって地域を良くしていこうとする、当事者意識に基づく自負心のこと。
スマートシティ	都市の抱える諸課題に対して、ICT 等の新技術を活用しつつ、マネジメント（計画、整備、管理・運営等）が行われ、全体最適化が図られる持続可能な都市または地区
スマート農業	「ロボット、AI、IoT など先端技術を活用する農業」のこと。
スタートアップ	「新規性」と「成長性」を有する創業から期間がたっていない企業や事業。（ベンチャーとほぼ同義）
スマートエネルギーシティ	エネルギーマネジメントを都市レベルで実施するもの。
脱炭素社会	地球温暖化の原因と考えられる二酸化炭素の排出量を実質ゼロにする社会のこと。
ドローン	無人で遠隔操作や自動制御によって飛行できる航空機の総称。

用語	解説
内水氾濫	堤防の内側、すなわち居住地域内の支川や水路で氾濫が起きること。 （堤防の外側、すなわち河川敷から堤防内部の居住地域に水が溢れることを外水氾濫という。）
ハザード	危険の原因・危険物・障害物などを意味する英語。「偶然」という意味もある。
ハザードマップ	被害予測地図（ひがいよそくちず）。自然災害による被害を予測し、その被害範囲を地図化したもの。
ハブ	交通結節点（こうつうけっせつてん、英語: transport hub、traffic node）は、人や物の輸送において、複数の同種あるいは異種の交通手段の接続が行われる場所、複数の交通モード間の不連続点のことである。ハブとも呼ばれる。交通工学や都市工学の分野では単に結節点とよばれることもある※BRT の交通結節点（青山）と言葉の使い分けにより、BRT 以外の想定を「ハブ」と表記する。
バイオテクノロジー	生物学を意味するバイオロジーと技術を意味するテクノロジーの合成語。生物の行う化学反応、あるいはその機能を工業的に利用・応用する技術。生命工学。生物工学。
万代島ルート線	新潟バイパス紫竹山インターチェンジから中央区寄居町に至る全長約 5.6 キロメートルの道路。平成 4 年に都市計画決定され、高速道路や新潟バイパスといった東西方向を結ぶ道路と新潟市中心部を南北に結ぶ。柳都大橋を含む 1.5 キロメートル区間が先行して開通し、現在、国の直轄事業として、国道 7 号栗の木バイパスで「栗ノ木道路」と「紫竹山道路」の整備を進めている。
ビッグデータ	一般的なデータ管理・処理ソフトウェアで扱うことが困難なほど巨大で複雑なデータの集合を表す用語。「オープンデータ」、「知のデジタル化」、「M2M（Machine to Machine）データ」、「パーソナルデータ」に分類される。
ベンチャー	冒険。冒険的な企て。投機。
ベンチャー（企業）	企業として新規の事業へ取り組むことをいう。
容積率	敷地面積に対する建築延べ面積（延べ床）の割合のこと。 （建築基準法第 52 条）
リーシング	賃借やリース業務を意味する言葉不動産業界用語としては商業用不動産の賃貸物件に借り手がつくようにサポートする業務や賃借契約の仲介業務を行うことを指す。
ローカル	地方的な、地方の。